

◎総領事からのメッセージ（2011年2月28日）

2月には、出張、視察、懇談などが盛り沢山にありました。この中で、2月後半時期に行われた以下の活動を皆様に御紹介させて頂きます。

◆マイアミ補習校の学芸会：

2月19日午後、マイアミ・デト郡にある日本人補習校の学芸会に来賓として招かれ、幼稚園から小学生、中学生の皆さんによる素晴らしい発表を見させて頂きました。平日は公立校に通い、週末の土曜日だけの学校ですので、中学生にもなると補習校での勉強との両立が大変になります、との大抜校長先生のお話でした。学校運営委員会の皆様が学芸会のためにいろいろお世話をされておられる姿や教会からお借りしている教室も拝見しました。児童図書はまだまだ足らないという事情などもお聞きしました。こうした教育環境の中で、139名の児童・生徒さんたちが、伸び伸びと育っておられる様子を直接に拝見することが出来、皆さんの発表内容に大変に感心するとともに心温まる楽しい一時を過ごすことが出来ました。



なお、2月17日には、マイアミ・デト郡のロフタス警察本部長さんにご挨拶に参り、地域の防犯事情などをお聞きしました。地域コミュニティーと警察

の間での連携を重視して、犯罪率の低下に効果を上げているとのお話でした。当方より、補習校・日系企業関係者は治安面には当然のこと強い関心を持ってること、緊密な連絡体制を今後維持したいとのお願いもしたところです。

◆フロリダ州立大学 (FSU) 等訪問 :

2月25日、州都タラハシにキャンパスのある FSU を訪問し、同大学で研究活動をされている日本人の方々とお会いすることができました。世界でも最大規模のマグネティク・ラボ（超伝導）研究施設で研究活動を続けられておられる先生や遺伝子研究・がん細胞の研究といった最先端の研究活動を4-5年続けておられ、その成果の一端が専門の科学雑誌に掲載している例など直接伺うことが出来ました。今後、立派な研究成果を認められることを心より願っております。また、同大学の修士・博士課程に在籍し、研究をする傍ら、同大学からの要請があり、日本語クラスなどの指導も担当されている院生の方々にもお会いすることができました。さらには、JET プログラムにより、大阪府大東市で英語の補助教員として2年間活躍、その後、昨秋から同大学の国際センター (Center for Global Engagement) の次長として、東京の有名私立大学やドイツの工科大学等との交換学生プログラムで活躍しているスチーブ君 (Steve Rieg) にも会うことができました。また、クリントン大統領やオバマ大統領の就任パレードのマーチング・バンドとして活躍し、また、マーチング・バンドとして最高の栄誉であるスーザ賞を授与されているフロリダ農業・工業大学 (FAMU) 音楽部部長のホワイト教授 (マーチングバンド監督) にもお会いして、1892年から続く同バンドが、現在400名の団員がいること、練習に使用する大学ホールやコンサート・シアターを視察し、又、日本の優秀なマーチング・バンドとの交流があるなどのお話を同教授からお聞きしました。

今回の2大学の訪問に際しては、FAMU 物理学科で長年にわたり研究を続けておられる田中源蔵博士に大変にお世話になりました。

◆フロリダ南部地区の日本語教師会との意見交換 :

2月26日、日本語教師会（略称：AFTJ、Mieko Avello 会長）の皆様を公邸にお招きして、各地での日本語クラスの現状と課題などについて意見交換を行いました。

当日には、タンパ、オーランド、ブロワード郡及びマイアミ周辺地区の小学校からマイアミ大学、フロリダ国際大学、南フロリダ大学などで日本語の授業を担当されている11名の教師の方々に御参集を頂きました。参加された方の中には、20年以上も日本語を教えておられるというベテランの先生や私立学校で小学校から高校レベルまで日本語の授業がある学校の教師の方もおられま

した。教師会の報告によれば、フロリダ州南部の日本語クラスの生徒数は、2008年から2011年までの推移をみると、学校により増加している、横這い、減少気味ということですが、全体として、生徒数が必ずしも減少しているわけではないこと、父兄（PTA）、校長の強い関心と理解がある学校や、日本の漫画・アニメなどに当初関心を持ち、日本語学習に興味がある生徒も多く、毎年、生徒の間で日本語へのニーズ・関心が高い大学がある一方で、州財政赤字で教育支出が削減される傾向の中で、影響力のある校長、地域スクールボード（教育委員会）から、日本語授業支援のカットの動き、一クラスあたりの生徒数の制限・調整の動きがあること、教師の創意工夫で人気のある日本語授業や関連諸活動が報告されました。

フロリダ州南部の日本語教員の間では、従来から日本語教師会を通じての情報交換等がなされていたのですが、今回は、当総領事館が音頭を取り、こうした日本語教師の皆様の活動の現状と課題、可能な支援の在り方についての意見交換会を行いました。各教師から、地域での日本文化関連活動との連携等による日本語への関心をさらに広めていくことが必要ではないかとのご意見もありました。又、参加された教員の方々から、総領事館が音頭を取り、こうした日本語教師の集いは行うことは極めて有益であるとの強い賛辞の声がありました。積極的なご意見・ご指摘があり、意見交換会は予定時間を大分超過して行われました。



（フロリダ日本語教師会の皆様と）

これから、日本語教師の皆さんと総領事館の活動との連携を強化していくこと、学校・生徒に好評なグッド・プラクティスを含めた関連情報を継続して共有していくこと、具体的な日本語クラス支援、さらにオールジャパンとしての取り組み可能性について、今後さらに英知を絞って検討していくこととしております。日本語教員の皆様の長年にわたるフロリダ州内の各校での活発な活動ぶりをお聞きし、改めて大変さを感じた次第です。

◆国務省チームと親善ソフトボール試合：

2月27日、コーラルゲーブルズ市内の公園で総領事館職員と国務省地域事務所職員との親善ソフトボール試合があり、シュレスニック市長の名審判の下、楽しいひと時を過ごしました。試合結果は、日本チームは4対7で国務省チームに惜敗しました。



＜写真：日本チームとシュレスニック市長（真中列左から5人目）と国務省チーム＞
(了)